

登録コード	ASK04500	開講年度	2026				
授業科目	動物資源生産学特別実験実習				担当教員	上野 豊	
英文授業名	Advanced Experimental Course on Animal Science and Technology				副担当	竹田 謙一・徳武 優佳子	
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室			授業形態	実験	備考		
信大コンベンション	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2026ASカリ, 2025ASカリ, 2024ASカリ, 2023ASカリ						
	【専攻】より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術、倫理観を修得している。				⇔	豊かな人間社会の構築に貢献できるより広範な知識と高度な専門技術、倫理観を修得している。	
授業の概要	資源動物に関する基礎的・応用的実験手法についての理論を概説し、その後、実習形式で、実験手法の詳細を修得し、種々の分野でのそれらの利用方法を探る。						
Contents:	Experimental exercises will be carried out about a subject of each profession.						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 草食動物の餌とその消化 第3回 草食動物の餌とその評価 第4回 草食動物と微生物との関係 第5回 飼料成分の簡便な分析①（元素分析） 第6回 飼料成分の簡便な分析②（キットの利用） 第7回 飼料成分の簡便な分析③（ドライケミカル） 第8回 微生物とその代謝産物の分析①（オミクス分析） 第9回 微生物とその代謝産物の分析②（有機酸） 第10回 動物代謝の分析（マーカー法）（以上 上野 豊） 第11回 動物の行動と学習ならびに、生息環境との関係 第12回 動物園における展示動物の行動観察 第13回 家畜のアニマルウェルフェア総合評価（以上 竹田謙一） 第14回 生態系と物質循環 - 家畜を例にした窒素循環等 第15回 人間活動と物質循環 - 堆肥の利用法を例に（以上 徳武優佳子）						
成績評価の方法	参加態度（50％）、レポート（50％）により総合的に評価する。なお、レポートは、各単元終了後に担当教員宛に提出すること。						
成績評価の基準	参加態度（50％）、レポート（50％）により総合的に評価する。評価基準は次の通りです。 秀：90～100点 優：80～89点、 良：70～79点、 可：60～69点 不可：0～59点						
事前事後学習の内容	担当教員の指示に従って、事前準備等に当たってください。						
履修上の注意	開講日及び実験室等については、担当教員より別途指示します。						
質問,相談への対応	担当教員に直接、質問又は相談して下さい。						
学生へのメッセージ	担当教員からの連絡に注意して、間違いの無い様に受講して下さい。						
【教科書】	必要に応じて資料配布						
【参考書】	なし						